

第 31 回  
日本霊長類学会大会  
プログラム集

Program of The 31<sup>st</sup> Congress of the Primate Society of Japan

会期: 2015 年 7 月 18 日(土)~7 月 20 日(月)

会場: 京都大学 百周年時計台記念館

京都市左京区吉田本町

Dates: 18<sup>th</sup> (Sat) – 20<sup>th</sup> (Mon) July, 2015

Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall Building



## 第 31 回日本霊長類学会大会の開催にあたって

第 31 回日本霊長類学会大会が、2015 年 7 月 18-20 日に京都大学時計台を会場に開催されます。主催者である京都大学リーディング大学院「霊長類学・ワイルドライフサイエンス」（英文名称、Kyoto University Graduate Program in Primatology and Wildlife Science, 略称 PWS）を代表して、歓迎の挨拶を一言申し述べます。

リーディング大学院は、文部科学省—日本学術振興会が所轄し、全国で 62 事業おこなわれています。京都大学には 5 つあって、全体責任者は山極壽一総長で、オンリーワン型として唯一のものが PWS です。理学研究科生物科学専攻と霊長類研究所と野生動物研究センターという京都大学の 3 つの部局を主体として、学内外の教員が分担者として参加しています。発足したのが 2013 年 10 月 1 日です。大学院の履修生を受け入れ始めて 2 年目です。詳細については、ぜひホームページをご覧ください。

<http://www.wildlife-science.org/>

「霊長類研究」の第 1 巻 1 号の冒頭に、「日本霊長類学会の誕生」と題して、学会長の河合雅雄先生が日本霊長類学会設立の経緯を書いておられます。J-stage で公開されていますので、ぜひご一読ください。それによると、1985 年 7 月 20 日、名古屋市の名鉄グランドホテルで設立総会が開催されました。会員数 423 名、出席者 120 名とあります。民間主導型によって新しい学問の形成と発展をみた、と河合先生は表現されています。学会設立 30 周年にあたるその日に、京都大学で本大会を開催するはこびとなりました。昨年 2014 年 4 月 1 日に、日本モンキーセンターが公益財団法人（理事長：尾池和夫元京大総長）として新たに独自の歩みを始めました。同センターの「プリマーテス研究会」が、本学会の前身といえるでしょう。霊長類学にとって温故知新の機会となるように期待を込めて大会を企画しました。霊長類学の歩みをこの年次大会で確認し、将来を展望する機会にさせていただければ幸いです。

本学会大会に引き続いて、7 月 21-22 日に理学部セミナーハウスに会場を移して、第 4 回霊長類学・ワイルドライフサイエンス・国際シンポジウム（PWS 中間シンポジウム）を開催いたします。開かれた集いですので、そちらにもご自由に参加ください。なお、本大会の開催にあたり、学内の霊長類学会会員に実行委員として広く声をかけさせていただきました。いただいたご意見を参考に、例年の学会大会を踏襲することを旨として、リーディング大学院 PWS の運営にかかわる支援室を中心にした小規模の運営委員会方式で大会を準備させていただきました。到らぬ点が多々あったと思います。関係各位のご理解とご寛容をお願いするしだいです。

大会長	松沢哲郎	
運営委員長	友永雅己	
運営委員会	林美里	足立幾磨
	平田聡	川上文人
	服部裕子	早川卓志
大会事務局	左海陽子	秋山未来
	宮部真奈美	栗畑裕子
	酒井道子	大藪陽子
	奥村由香利	平田加奈子

●会場案内

京都大学 百周年時計台記念館 〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Venue: Kyoto University Clock Tower Centennial Hall Yoshida-Honmachi, Sakyo-ku, Kyoto, 606-8501

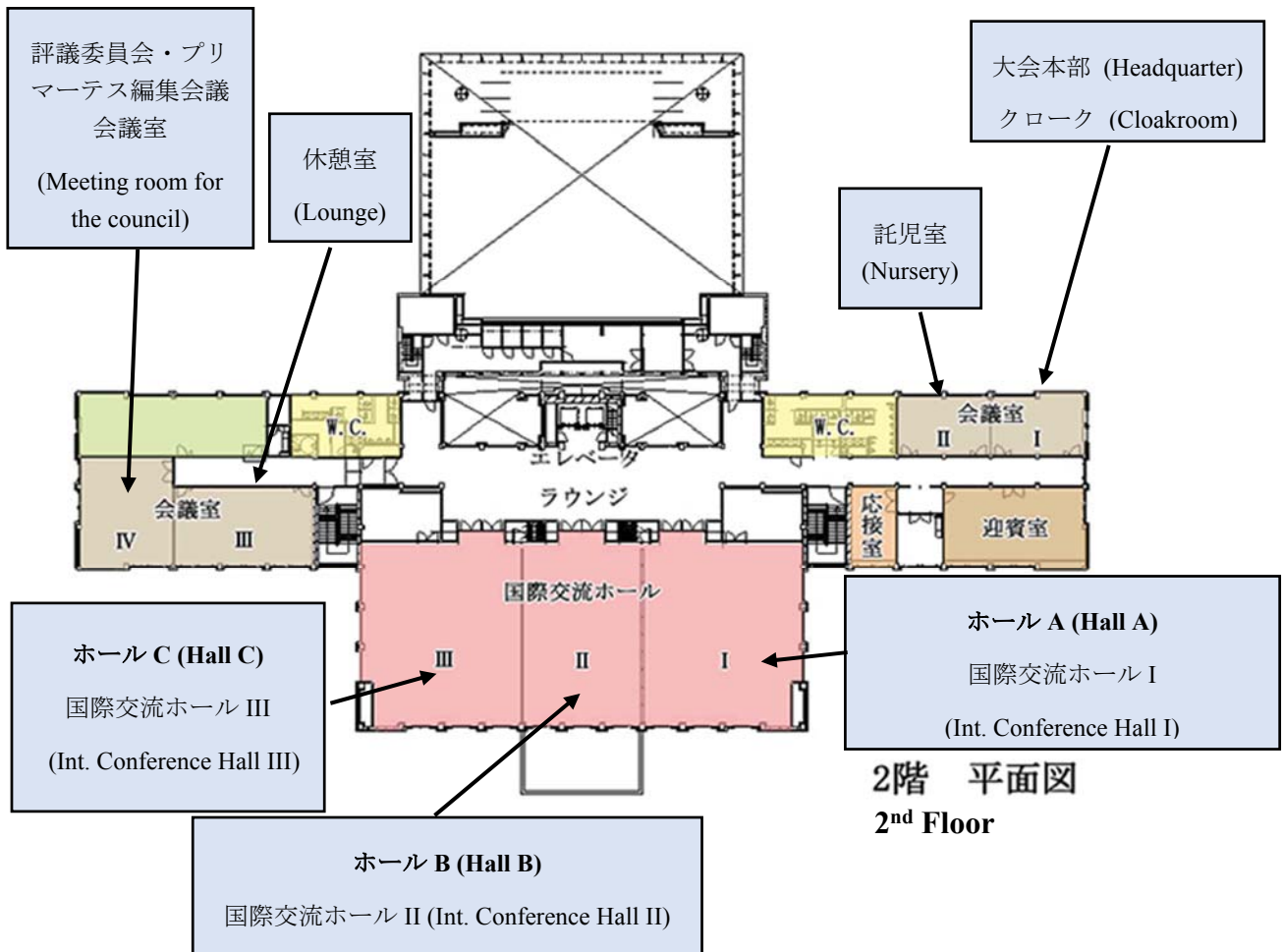
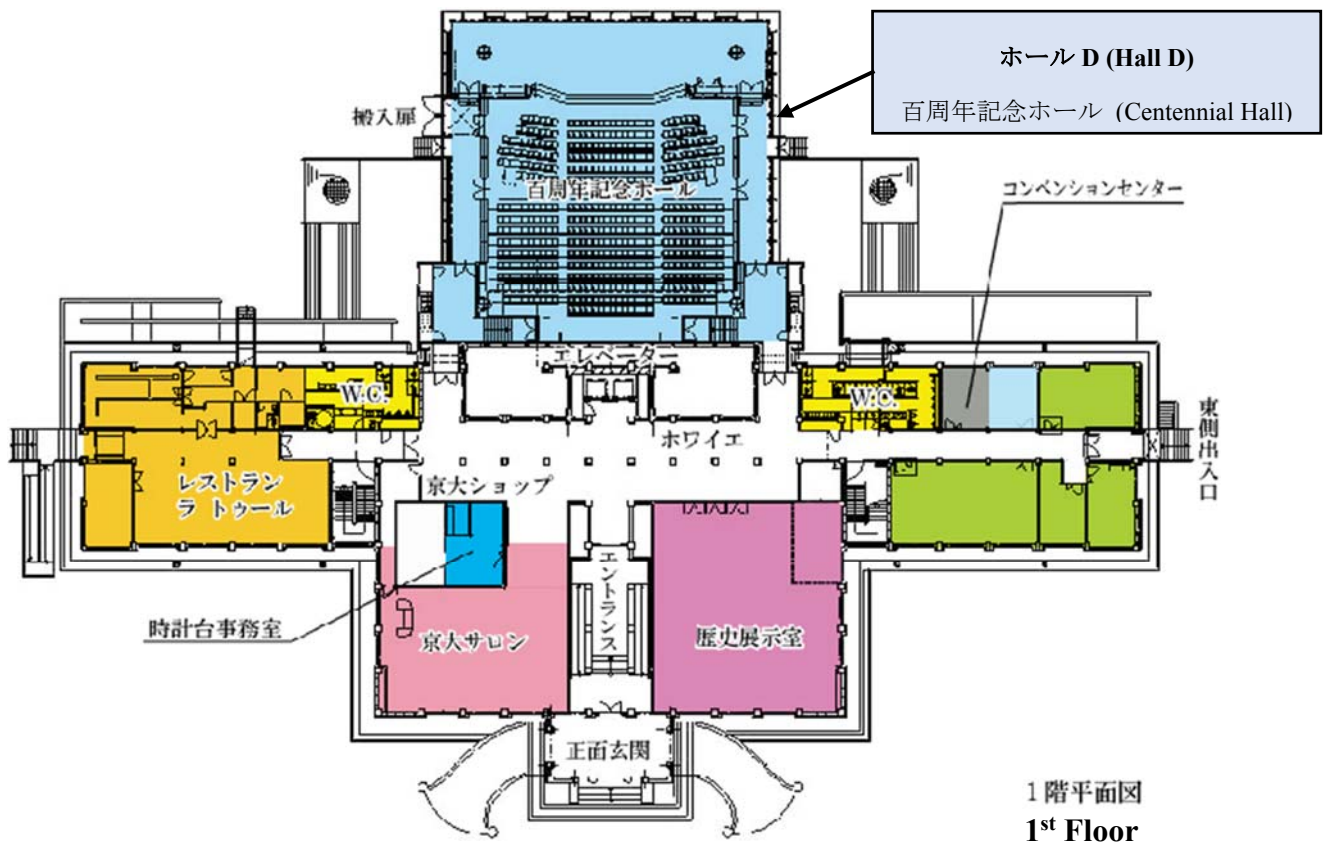


主要鉄道駅 Train Station	利用交通機関 Type of Transportation	乗車バス停 Bus Stop for Boarding	市バス系統 Route Number	市バス経路 Destination	所要時間 Duration	下車バス停 Bus Stop for Getting Off
JR/近鉄京都駅 JR/Kintetsu Kyoto Station	市バス City Bus	京都駅前 Kyoto Station	206 系統 #206	東山通り 北大路 バスターミナル行 Higashiyama-Dori Kitaoji Bus Terminal	35 分 35 min	京大正門前または 百万遍 Kyodai Seimon-Mae or Hyakumanben
			17 系統 #17	河原町通 銀閣 寺・錦林車庫行 Kawaramachi-Dori Ginkakuji Kinrin-Shako	35 分 35 min	百万遍 Hyakumanben

詳細は以下の URL をご参照ください。 Visit the link below for further details.

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r\\_y/](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/)

<http://www.wildlife-science.org/en/Guide-to-Kyoto-University=Directions-from-Kyoto-Station-to-Kyoto-University.html>



# 第 31 回日本霊長類学会大会日程 Program

7月18日(土) July 18, Saturday			7月19日(日) July 19, Sunday				7月20日(月) July 20, Monday			
2階 (2nd Floor)			2階 (2nd Floor)		1階 (1st Floor)		2階 (2nd Floor)		1階 (1st Floor)	
ホールA (Hall A)	ホールB (Hall B)	ホールC (Hall C)	ホールA (Hall A)	ホールB (Hall B)	ホールC (Hall C)	ホールD (Hall D)	ホールA (Hall A)	ホールB (Hall B)	ホールC (Hall C)	ホールD (Hall D)
9:00										
10:00			行動・認知1 Behavior & Cognition 1 (A1-A10)	形態・分子 Morphology & Molecules (B1-B10)	行動・認知・分子 Behavior, Cognition, & Molecules (CE1-CE8)		行動・生態1 Behavior & Ecology 1 (A17-A27)	形態・系統・分子 Morphology, Phylogeny, and Molecules (B17-B27)	行動・生態2 Behavior & Ecology 2 (C1-C11)	
11:00										
12:00										
13:00	自由集会1 Workshop 1 (AW1) サル屋とヒト屋の共同研究とは? : 「人類社会の進化史的基盤研究」の試み	自由集会2 Workshop 2 (BW1) Street Monkey Performance: cultural roots and welfare	自由集会3 Workshop 3 (CW1) より充実した研究を目指して—若手霊長類研究者へのエール	生態 Ecology (A11-A16)	集団・遺伝 Population & Genetics (B11-B16)	行動・認知2 Behavior & Cognition 2 (DE1-DE6)				公開シンポジウム [Public Symposium] Human nature viewed from the long-term field studies of the great apes: chimpanzees, gorillas, and orangutans
14:00										
15:00					ポスター Poster (P1-57, PN1-13) 奇数Odd#: 14:40-15:40 偶数Even#: 15:40-16:40					
16:00	自由集会4 Workshop 4 (AW2) 野生チンパンジー—研究の重要性と今後の展望	自由集会5 Workshop 5 (BW2) 縁の下の力持ち: 小さな筋はなにをしているのか	自由集会6 Workshop 6 (CW2) 野生への窓を開く動物園教育							
17:00						総会 General Assembly				
18:00						授賞式・講演 Takashima-Award Ceremony & Lectures				
19:00										
20:00						懇親会 Reception (18:30-20:30)				

- 評議委員会: 7月 19 日(日) 12:00 から 13:00 (2F 会議室 IV)
- プリマーテス編集会議: 7月 20 日(月) 16:00 から 18:30 (2F 会議室 IV)



# 霊長類学の明日

大型類人猿の長期野外研究からみた人間の本性：  
チンパンジー・ゴリラ・オランウータン

Human nature viewed from the long-term field studies of  
the great apes: chimpanzees, gorillas, and orangutans



Orangutans  
Carel van Schaik  
University of Zurich



Chimpanzees  
中村美知夫  
京都大学 野生動物研究センター



Gorillas  
山極壽一  
京都大学 総長



Chimpanzees  
Michael L. Wilson  
University of Minnesota



Chair  
William C. McGrew  
University of Cambridge

参加無料  
予約不要

2015年7月20日(月・祝) 13:00 @京都大学 百周年時計台記念館

\*プログラムはすべて英語でおこなわれます。

## PWS Interium Symposium

The 4th International Symposium on Primatology and Wildlife Science  
Toward the Asian Federation for Primatology

7月21日(火) - 7月22日(水) @Science Seminar House, Kyoto University

第31回霊長類学会大会 : 7月18日(土) - 7月20日(月・祝)

<http://www.wildlife-science.org/psj2015/>

お問い合わせ:

〒484-8506 愛知県犬山市官林41-2 京都大学霊長類研究所 友永雅己

[psj2015@wildlife-science.org](mailto:psj2015@wildlife-science.org)

tel: 0568-63-0549



●参加者の皆様へ

1. 大会受付

大会受付は、京都大学百周年時計台記念館 2F 国際交流ホール前ロビーにて行います。  
受付時間は下記の通りです。

7月18日(土)	12:30	～	18:30
7月19日(日)	9:00	～	18:30
7月20日(月・祝)	9:00	～	13:30

※開館時間が9時ですので、それ以前には会場にお入りになれません。

1) 事前に参加費をお支払いいただいた方へ

受付にて、名札をお受け取りください。会場では必ず名札をお付けください。

当日に懇親会参加を申し込まれる場合は、受付でお申し出いただき、懇親会費 4000 円（学生 2000 円）をお支払ください。

2) 当日参加費をお支払いただく方へ

受付にて参加費 4000 円（学生 2000 円）、懇親会費 4000 円（学生 2000 円）をお支払の上、名札をお受け取りください。なお、事前に参加申込をしていただいた方は、その旨をお申し出ください。

3) 領収書を必要とされる方は、受付にお申し出ください。

4) 大会会場では、当日参加の方にお配りするプログラム（抄録なし）は準備いたしますが、本抄録集については有償とさせていただきますので、参加される学会員の方は、必ず本誌をご持参ください。

2. 託児サービス

託児室を開設いたします。ご利用を希望される方は、事前に大会事務局までご連絡ください。当日にご利用を希望される場合、若干名であれば受入が可能な場合もありますので、大会本部または受付までお問い合わせください。

3. 呼び出し・伝言

緊急時を除き、参加者の呼び出し等はいたしません。受付横にボードを準備いたしますので参加者間の連絡にご利用ください。

なお、大会事務局からの連絡を同じボードに掲示することがありますので、ご注意ください。

4. クローク

本部併設の 2F 会議室 I にクロークを開設いたします。但し、貴重品・傘などはお預かりできませんのであらかじめご了承ください。

7月18日(土)	12:30	～	18:30
7月19日(日)	9:00	～	18:30
7月20日(月)	9:00	～	16:30

5. 昼食

会場周辺の施設をご利用ください。ただし、土日祝日のため学内の生協店舗は、閉店もしくは営業時間が短縮となっておりますので、ご注意ください。詳細は生協 HP をご覧ください。[http://www.s-coop.net/shop\\_guide/](http://www.s-coop.net/shop_guide/)

6. 評議員会

評議員会は、7月19日(日)12時00分から13時00分に、2F 会議室 IV で開催します。



## 7. 総会

総会は、7月19日(日) 16:45 から 17:30 に、1F 百周年記念ホールで開催します。

## 8. 高島賞授与式・受賞者講演

高島賞授与式と受賞者講演を7月19日(日) 17:30 から 18:30 に、1F 百周年記念ホールで開催します。

## 9. 懇親会、優秀発表賞授与式、Primates Most Cited Paper Award 授与式

懇親会は、7月19日(日) 18:30 から 20:30 の間に、国際交流ホールで開催します。なお、優秀発表賞授与式と Primates Most Cited Paper Award 授与式を、懇親会内で行います。

## 10. 自由集会

以下の6つの自由集会が、7月18日(土)に開催されます。

自由集会1 サル屋とヒト屋の共同研究とは? : 「人類社会の進化史的基盤研究」の試み

自由集会2 Street Monkey Performance: cultural roots and welfare

自由集会3 より充実した研究を目指して一若手霊長類研究者へのエール

自由集会4 野生チンパンジー研究の50年—長期研究の重要性と今後の展望

自由集会5 縁の下の力持ち: 小さな筋はなにをしているのか

自由集会6 野生への窓を開く動物園教育

## 11. 公開シンポジウム

日本霊長類学会大会公開シンポジウム「Human nature viewed from the long-term field studies of the great apes: chimpanzees, gorillas, and orangutans 大型類人猿の長期野外研究からみた人間の本性: チンパンジー、ゴリラ、オランウータン」が、7月20日(月)13時から16時に開催されます。会場は、百周年記念ホールです。大会参加者以外の方も自由にご参加いただけます。なお、プログラムはすべて英語で行われます。

## 12. プリマーテス編集会議

プリマーテス編集会議は、7月20日(月)16時00分から18時30分に、2F 会議室 IV で開催します。

## 13. 駐車場

京都大学百周年時計台記念館には、一般利用者が利用できる駐車場がありません。公共交通機関をご利用ください。

## ●口頭発表演者の方へ

### 1. 発表時間

発表時間は、15分（発表10分、質疑5分：交代時間も含む）とします。8分経過で1鈴、10分経過で2鈴、15分経過でブザー音を鳴らします。時間厳守にご協力ください。

### 2. 発表用機材

#### 1) 大会事務局で準備するPCをご利用になる方へ（推奨）

大会事務局が準備するPCは、Windowsのみです。ソフトは、PowerPoint (PowerPoint 97-2003形式で保存したもの)とAdobe Reader(PDF形式)のみとなります。これ以外のソフトをご利用になる場合は、ご自分でPCをご準備ください。発表用ファイルは、ファイル名(動画を含める場合はフォルダ名)を発表番号と演者氏名とし(例, A01 鈴木一郎.ppt), USBフラッシュメモリに保存したものを、発表の前日17時までに大会受付にご提出ください。前日の受付が困難な方は、大会事務局へ事前にご連絡の上、7月10日(金)までに、大会事務局にEメールでお送りください。ファイルサイズが大きくメールに添付できない場合は、オンラインストレージなどをご利用いただき、リンク先をご指定ください。一度お送りいただきましたファイルの差し替えはお受け付けできませんので、ご注意ください。お預かりしたファイルは、大会終了後、責任をもって廃棄いたします。

#### 2) 発表用PCをご持参される方へ

発表時の映写トラブルでの時間延長は認められませんので、以下の点にご留意の上、ご参加ください。

##### コネクター

一般的な液晶プロジェクターを準備しています。プロジェクター側のコネクターはDsub15ピンオスです。変換ケーブルを必要とする機種の場合には、必ずご自分でご準備ください。使用PCによっては、プロジェクターの自動認識ができない場合がありますので、プロジェクターへの手動認識方法をご確認の上、ご参加ください。

##### 電源管理等

交代時間を短くすませるために、発表の1演題前には電源を投入しておいてください。発表中にスクリーンセーバーや省電力モードにならないように、予め電源設定を御調整ください。

##### 画素数

プロジェクター画面サイズはXGA（1024×768）です。XGAで出力できる機種をご用意ください。

#### 3) その他の発表機材

PC以外の発表機材をご希望の方は、大会事務局までメールでお問い合わせください。

## ●ポスター発表演者の方へ

### 1. ポスター掲示用パネル

ポスターの大きさは、高さ180cm、幅90cm以内としてください。ポスターパネル最上部左側に演題番号を表示していますので、該当の演題番号のパネルをご利用ください。ポスター貼付用の画鋸は事務局側で用意しますが、それ以外のものが必要な場合は各自でご準備ください。

### 2. ポスター掲示

ポスター発表会場は、国際交流ホールIII(C会場)です。7月19日(日)12:30からポスター掲示を開始できます。14:40までに掲示を完了させてください。ポスターは、7月19日(日)16:40までは掲示しておいてください。撤去は、7月19日20:00を期限とします。期限を過ぎて残されているポスターは、大会事務局が廃棄します。

### 3. 発表時間

下記の時間帯に、責任発表者は各自のポスターパネルにてご待機ください。

演題番号が奇数番号の演者： 14時40分 ～ 15時40分

演題番号が偶数番号の演者： 15時40分 ～ 16時40分

#### ●座長の方へ

座長をお引き受けいただいた方は、担当していただくセッションの開始10分前までに、各会場にお越しください。セッションの担当時間内での進行方法は、原則としてお任せしますが、各演題の発表開始時間は厳守してください。

## Information for Conference Attendees

### 1. Registration

The registration desk will be located in front of the International Conference Hall, on the second floor of Kyoto University Clock Tower Centennial Hall Building. The desk will be open at the following hours:

#### REGISTRATION DESK OPENING HOURS

Sat July 18th	12:30 am – 06:30 pm
Sun July 19th	09:00 am – 06:30 pm
Mon July 20th	09:00 am – 01:30 pm

Entry to the building will not be possible before 09:00 am.

1) Attendees who have already registered and paid in advance: please collect your name tag from the registration desk. Please wear your name tag on your person throughout the congress. Attendees, who wish to attend the evening reception, but who have not yet paid, must make a cash payment at the registration desk of 4,000 JPY (2,000 JPY for students).

#### 2) On-site registration

For on-site registration, please go to the registration desk. Fees are as follows:

Registration: general, 4,000 JPY; students, 2,000 JPY

Evening Reception: general, 4,000 JPY; students, 2,000 JPY

3) A receipt of payment is available upon request at the registration desk.

4) Hard copies of the program (without abstracts) will be available on-site, free of charge. All PSJ members will have already received a program, with abstracts included, through the post; this version can be purchased at the registration desk.

### 2. Crèche Service (Nursery)

A crèche service will be available for the duration of the conference. Priority will be given to those who applied in advance. However, there may still be places available. Please ask at the registration desk.

### 3. Message Board

To facilitate communication between attendees, a message board will be available next to the registration desk. No paging service will be provided, except in the case of emergency. Important notices from the organizing committee may also be posted on this message board.

### 4. Cloakroom

A cloakroom will be available in Conference Room I, on the second floor. Please note that we cannot store valuables or umbrellas. The cloakroom will be open at the following hours:

#### CLOAKROOM OPENING HOURS

Sat July 18th	12:30 am – 06:30 pm
Sun July 19th	09:00 am – 06:30 pm
Mon July 20th	09:00 am – 04:30 pm

#### 5. Lunch

There are several restaurants and convenience stores near to the venue. Lunch is also available from Kyoto University cafeterias. To check weekend opening hours, please visit this website:  
[http://www.s-coop.net/shop\\_guide](http://www.s-coop.net/shop_guide) (in Japanese).

#### 6. Board of Councilors

A meeting of the board of councilors will be held on Sunday, July 19th, 12:00 am-01:00 pm, in Conference Hall IV, on the second floor.

#### 7. General Assembly

The PSJ General Assembly will be held on Sunday, July 19th, 04:45-05:30 pm, in the Centennial Hall on the first floor.

#### 8. Takashima Award

The Takashima Award Ceremony, and Lecture to be given by the awardee, will be held on Sunday, July 19th, 05:30-06:30 pm, in the Centennial Hall on the first floor.

#### 9. Evening Welcome Reception (including the “Best Presentation Award” and “Primates Most Cited Paper Award” Ceremonies)

A welcome reception will be held on Sunday, July 19th, 06:30-08:30 pm, in the International Conference Hall. The two award ceremonies will be held during this evening reception.

#### 10. Workshop

Six workshops will take place on Saturday, July 18th. Workshop 2) “Street Monkey Performance: cultural roots and welfare” will be conducted in English.

#### 11. Public Symposium

The PSJ Public Symposium entitled “Human nature viewed from the long-term field studies of the great apes: chimpanzees, gorillas, and orangutans” will be held on Monday, July 20th, 01:00-4:00 pm, in the Centennial Hall. The official language of this public symposium is English.

#### 12. Primates Journal Editorial Meeting

An editorial meeting of the journal ‘Primates’ will be held on Monday, July 20th, 04:00-06:30 pm, in Conference Hall IV on the second floor.

#### 13. Parking

No parking spaces are available to attendees. Please use public transport.

## **PRESENTATION GUIDELINES**

### **Oral Presentations**

1. Each speaker is allocated 15 min in total (10 min for presentation; 5 min for a Q & A session). Each presentation will be timed: a bell will ring once at 8 min, twice at 10 min, and a buzzer will sound at 15 min.

#### 2. Equipment

1) Each room will be equipped with a windows OS computer. This computer will only accept PowerPoint files (Microsoft PowerPoint 97-2003 compatible) or PDF files (Adobe Acrobat). If your presentation is saved in another format, please bring your own computer. Your presentation data file should be named as follows: <Presentation Number>, <Name>, <.ppt/pdf>. For example, "A01 Ichiro Suzuki.ppt". Please save your file on a USB flash drive and submit it to the registration desk by 05:00 pm on the day before your presentation.

#### 2) Speakers using their own computers

No extension of the allotted presentation time will be permitted, regardless of any computer problems. Please read the details below carefully and check the settings of your computer in advance.

##### - Projector Connection

The projector, available in each presentation room, connects only via a D-sum 15-pin plug. No conversion cables will be provided, so please bring any additional cables you might require. It is essential that you check that you can successfully connect your computer to the projector well in advance of your presentation.

##### - Power Management

Please make sure to have your computer switched on, with the relevant software running and your file open, during the presentation directly before your own. In order to prevent the computer from entering a power-saving mode during the presentation, please check the power management settings carefully in advance.

##### - Projector Resolution

The projector has XGA resolution (1024 x 768 pixels).

#### 3) Other equipment

If you wish to use any additional equipment for your presentation, please contact the organizing committee by email.

### **Poster Presentations**

#### 1. Poster Boards

Each poster must be a maximum size of 180 cm high by 90 cm wide. The poster boards are numbered on the upper left corner. Please, be sure to affix your poster to the board showing the number matching your assigned poster ID number. Thumbtacks will be supplied to attach your poster to the board.

#### 2. Presentations

Posters will be displayed in International Conference Hall III (Room C). All posters must be displayed on July 19th, 02:40-04:40 pm. You may attach your poster to the appropriate board from 12:30 pm and must remove it by 08:00 pm.

### 3. Poster Sessions

Two poster sessions are scheduled as follows:

Session 1 (odd-numbered poster IDs): 2:40-3:40 pm

Session 2 (even-numbered poster IDs): 3:40-4:40 pm

Poster presenters are required to stand in front of their posters throughout their assigned session.

### **Session Chairpersons**

Session chairpersons must be in the room at least 10 min before the start of the session they are to chair. It is left to the discretion of each chairperson to decide how they will chair the session, however please keep strictly to the scheduled times.

## 自由集会 1 (AW1)

### サル屋とヒト屋の共同研究とは？：「人類社会の進化史的基盤研究」の試み

開催日時：2015年7月18日（土）13:00-15:30

会場：ホール A (国際交流ホール I)

人類は、家族、仲間、民族、国家など大小さまざまな集団の中で他者とともに生きる術をもっている。一生物種としての人類は、群居性動物である霊長類の一員として、集団で生活する方途を進化させてきたとあってよい。しかも、われわれは、重層的で複雑に絡み合い、しばしば巨大な集団のなかで生きている。こうした集団の生成には、諸制度（規範やルール、コンヴェンション等を含む）を生み出すとともに、高度な社会性 sociality の進化が必要であったはずである。

この命題に迫るため、霊長類社会／生態学、生態人類学、社会文化人類学に与する研究者が集い、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所において共同研究「人類社会の進化史的基盤研究」を開始して、3期10年が過ぎた。その間、テーマを「集団」（2005～08年度、主な成果：『集団-人類社会の進化』2009年、“Groups: The Evolution of Human Sociality” 2013年）、「制度」（2009～11年度、主な成果：『制度-人類社会の進化』2013年、“Practices, Conventions and Institutions: The Evolution of Human Sociality” 2017年3月刊行予定）、「他者」（2012～14年度、主な成果：『他者-人類社会の進化』2016年3月刊行予定）と展開しつつ、人類の社会と社会性の進化について議論を重ねてきた。

本集会では、ヒト以外の野生現生霊長類の社会を研究対象とする霊長類学者とヒトの社会を研究対象とする人類学者の対話ないし共同討議というかたちで続けられてきたわれわれの共同研究が、いかに有効であるのか（ないのか）について議論することを目指す。これまでのわれわれの共同研究の歩みを振り返り、今後を展望し、そのうえで、日本霊長類学会という場においてそれがいかに評価され、議論されうるのかを問いたい。

#### 予定プログラム

趣旨説明・司会：河合香吏（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

話題提供：各25分

1. 伊藤詞子（京都大学野生動物研究センター）  
「霊長類学者、人類学者に出会う」
2. 北村光二（岡山大学名誉教授）  
「『コミュニケーションの進化』を考える」
3. 内堀基光（放送大学教養学部）  
「凡庸ながらマルクスの箴言から：サルの解剖とヒトの解剖との対照の延長上で語ること」

休憩：10分

コメント：各10分

1. 西川真理（京都大学大学院理学研究科）
2. 水野友有（中部学院大学教育学部）
3. 座馬耕一郎（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

討論

企画責任者：河合香吏（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）

連絡先：Tel: (042)330-5691, e-mail: [kkawai@aa.tufs.ac.jp](mailto:kkawai@aa.tufs.ac.jp), URL: <http://human4.aa-ken.jp/>



## 自由集会 2 (BW1)

### **Street Monkey Performance: cultural roots and welfare**

開催日時：2015年7月18日（土）13:00-15:30 July 18, Saturday

会場 Room：ホール B (国際交流ホール II) Hall B (International Conference Hall II)

Animals used for entertainment has a long history dating back thousands of years. Archaeological evidence as far back as 2,000 B.C. in Macedonia show that lions were kept in cages. Nowadays, performances using whales, dolphins, horses, and non-human primates are very popular around the world. These species are used for entertainment in several different arenas, from zoos, theme parks, circuses to small scale illegal shows. However, a dichotomy exists in the training of animals, where either a positive reinforcement or punishment contingency is used. Some entertainment purposes have included violent shows, animals exoticized as objects of curiosity, and the anthropomorphization of animals through training and the modification of appearances. In Jakarta, for example, poverty drove the local population to train monkeys to take part in street performances wearing masks and to perform activities such as shopping, riding bicycles and other simulations of human behavior. Scientists have raised several concerns about the training techniques used and the physiological impact on these animals, such as injuries caused by the harsh training or due to financial restriction that does not allow the owners to provide a proper veterinarian care to the animals. In Japan, on the other hand, the monkey performance began as a religious ritual during which a trained monkey danced to music in order to cure horses. Through the years, trainers strived to culturalize the animal by teaching the bipedal posture, and this tradition remains nowadays in the streets as part of Japanese culture. Nevertheless, morphologists are concerned with the changes associated with training animals to mimic “human-like” behaviors. Studies have shown that the long-term training of Japanese monkeys to maintain upright posture introduced marked lumbar lordosis in monkeys. Bone remodeling in the postcranial skeleton also evidenced functional adaptations for stresses induced by sustained bipedalism. The aim of this workshop is to introduce the history and the consequences of animal usage for entertainment, focusing on street monkeys in Japan and abroad, and to raise a general discussion from cultural and welfare perspectives.

Tentative schedule: 3 talks (25 min each + 5 min questions) followed by discussion

Organizers: Rafaela S. C. TAKESHITA, Sofia BERNSTEIN, Prof. Masaki TOMONAGA, Prof. Takakazu YUMOTO (Kyoto University)

Contact: Rafaela S. C. TAKESHITA (Primate Research Institute, Kyoto University), [rafaela.takeshita.32c@st.kyoto-u.ac.jp](mailto:rafaela.takeshita.32c@st.kyoto-u.ac.jp)

## 自由集会 3 (CW1)

### より充実した研究を目指して—若手霊長類研究者へのエール

開催日時：2015年7月18日（土）13:00-15:30

会場：ホール C (国際交流ホール III)

研究を始めるにあたり大事なことは、どういったフィールドでどのような霊長類種を研究するかを決めることである。既に多くの基礎データが蓄積された長期調査地、霊長類種の研究は、研究テーマを速やかに開始できるのが長所である一方、他の研究者とのテーマ重複を避けるために限られたデータしか集められないという短所もあるだろう。しかし、新たな調査地の開拓や、まだ研究が進んでいない霊長類種の研究を開始するには、並々ならぬ困難もありそうだ。そこで、新たなフィールド開拓、新しい霊長類種の研究に着手し、今なお第一線で研究を続けている研究者に、その魅力をについて語ってもらう。

調査地を開拓し、新たな霊長類種の追跡が軌道に乗っても、次に待ち受けるのはどういったデータを、どのように集めるのかという問題である。正しくデータを集めなくては、せっかくの苦労が報われないこともあるだろう。そこで、一昨年「野生動物の行動観察法」を出版した研究者に、霊長類の行動データを集める際に特に注意する点について語ってもらう。

行動データが集まり、分析が終わると論文執筆作業が待ち受けている。昨今のポスドク就職難を考えると、まとめたデータを素早く論文として出版していくことが重要である。また野外で研究をする研究者にとっては、この室内での執筆作業はなるべく早く終わらせ、次のフィールド調査に出かけたいものである。そこで、効率の良い論文の書き方について語ってもらう。

自身の研究を更に発展させるために極めて重要なことは、いかに研究費を獲得していくかであろう。そのためには、自分の調査対象、自分の調査地の魅力を客観的に評価した上で、今後の研究戦略を練り上げていく構想力が必要となる。第一線で途切れることなく資金を獲得し、新たなプロジェクトを次々と立ち上げている研究者に、資金獲得に欠かすことのできない申請書をどう書いてきたか、実例をもとに語ってもらう。

#### 予定プログラム

1. 金森朝子（京大・霊長研）「新たなフィールドの開拓—野生オランウータンの調査地」
2. 本郷峻（京大・人類進化）「新たな霊長類種の研究開拓—マンドリル研究」
3. 井上英治（京大・人類進化）「その手法はだいじょうぶ？—霊長類の行動データ収集」
4. 松田一希（京大・霊長研）「どうやって論文をまとめるか—効率の良い書き方」
5. 半谷吾郎（京大・霊長研）「どうやって研究資金を獲得するか—研究戦略の練り上げ」

#### 主催：

企画責任者：松田一希（京大・霊長研）

連絡先：ikki.matsuda@gmail.com / 0568-63-0271

## 自由集会 4 (AW2)

### 野生チンパンジー研究の 50 年—長期研究の重要性と今後の展望

#### Fifty years of research on wild chimpanzees: Significance and future of long-term re-search

開催日時：2015 年 7 月 18 日（土）15:45-18:15

会場：ホール A (国際交流ホール I)

タンザニア、マハレ山塊での野生チンパンジーの研究が開始されてから今年で 50 年を迎える。本自由集会では、この記念すべき機会に、マハレでの 50 年間の研究成果を紹介するとともに、長期研究でこそ見えるものと今後の長期研究の展望について議論したい。

多くの霊長類は成長が遅く寿命が長い。このため、成長に関するパラメータや繁殖成功、社会変動などを知るためには長期研究が欠かせない。たとえば、初期に想定されていたよりもチンパンジーの寿命が長く、繁殖年齢も意外なほど長いことが長期調査によって明らかになっている。また、子殺しや新奇行動の発現など、興味深いものの稀にしか生じないような行動を理解する上でも長期調査は重要である。

日本の霊長類学は、当初から長期研究を志して開始された。現在の若手・中堅の世代の多くは、そうした先人たちの積み重ねに負っている。そして、そうした世代は、数十年間に蓄積されたデータを有効利用できるという恵まれた立場でもある。一方で、どのように調査地の継承・継続をしていくのかといったことは、今後多くの調査地で問題になりうる。

霊長類の長期調査地は、関連の研究分野にとっても可能性のある所となりうる。たとえば、多くの調査地は多様な生物が暮らす場所でもあるので、霊長類以外の動植物種の研究や種間関係の研究などを展開することも可能であろう。また、生物多様性の理解やそれに基づく保全戦略、密猟・伐採などの影響、地域社会保全などを考える上でも、調査基盤や地域との関わりが確立された長期調査地はポテンシャルが高いはずである。

この自由集会では、マハレでの長期研究を例にしつつ、霊長類学における長期野外研究一般の重要性と課題、および今後の展開について議論したい。

#### 予定プログラム

- ・趣旨説明
- ・個別報告（3～4 件ほど）
- ・コメント
- ・総合討論

#### 主催：

企画責任者：中村美知夫（京都大・野生動物）、保坂和彦（鎌倉女大・児童）、伊藤詞子（京都大・野生動物）、座馬耕一郎（京都大・アア地域研）

Organizer: Michio NAKAMURA (Kyoto University), Kazuhiko HOSAKA (Kamakura Women's University), Noriko ITOH (Kyoto University), Koichiro ZAMMA (Kyoto University)

#### 連絡先：

中村美知夫

〒606-8203 京都市左京区田中関田町 2-24 京都大学関田南研究棟 京都大学野生動物研究センター e-mail:

nakamura@wrc.kyoto-u.ac.jp

## 自由集会 5 (BW2)

### 縁の下の力持ち：小さな筋はなにをしているのか

開催日時：2015年7月18日（土）15:45-18:15

会場：ホール B (国際交流ホール II)

霊長類の多様な運動レパートリーは、種特異的な筋の解剖学的特徴や関節機構の特徴に反映されていると考えてきた。そこで機能に着目しつつ筋の解剖学的観察を行うのであるが、いくつかの小型筋の存在が疑問に思えてくることがある。なぜなら、これらの筋が作用する関節には小型筋と同様の作用を関節にもたらすと考えられる大型の筋が並存している場合が多いからである。たとえば、肩関節の小円筋は小さな筋であるといえるが、類似の走行を示す棘下筋が並存している。このような場合、力学的貢献があきらかに小さいと思われる小型筋の機能は何なのであろうか。また、小型筋と言っても、その「小ささ」には種差が認められる。種 A においてきわめて小型の形態を有する筋  $\alpha$  が、種 B でそれほど小さくない場合、筋  $\alpha$  の機能は、種 A と種 B で同一なのだろうか。それとも異なる機能を反映しているのであろうか。あるいは、筋のサイズは種特異的な運動適応とは全く無関係なのだろうか。本自由集会では、小型筋の機能を考察することで、霊長類における種の運動適応の問題にアプローチできる可能性を探ってみたい。さまざまな形態学的研究手法から得られた小型筋の機能解析の成果を持ち寄って、筋のサイズの変異に着目しつつ、機能を明らかにする方法を考えたい。紹介される研究手法は、筋重量比較、筋紡錘の筋内分布、生理学的筋断面積、関節機構分析などである。

#### 予定プログラム

1. 縁の下の力持ち：筋サイズの意味 熊倉博雄（大阪大院・人間科）
2. 筋配置からみた下腿の小型筋 後藤遼佑（大阪大院・人間科）
3. ヒトの足底筋は何をしているのか 一筋重量と筋線維構成から— 伊藤純治（昭和大・保健医療）
4. 生理的筋断面積からみた肩関節に関与する小型筋 一小円筋について— 菊池泰弘（佐賀大・医）
5. 小円筋は役立たずか？—関節機構学的検討— 藤野 健（都老人研）

#### 主催：

企画責任者：熊倉博雄（大阪大院・人間科学），藤野 健（都老人研）

連絡先：熊倉博雄 kumakura@hus.osaka-u.ac.jp 06-6879-8056

## 自由集会 6 (CW2)

### 野生への窓を開く動物園教育 How can zoo open the door to the wild?

開催日時：2015年7月18日（土）15:45-18:15

会場：ホール C (国際交流ホール III)

日本人は動物園が大好きだ。毎年、日本人口の半分以上にあたる延べ7千万人以上の人々が動物園や水族館を訪れている。これだけ多くの人々が集まる動物園は、野生動物を取り巻く現状について伝えるには格好の場所だ。しかし、動物園の人工的な環境で暮らす動物から学べることは、“何もしなければ”ごく限られたものになってしまう。サル山のサルを見て、形態や個体間関係を観察することはできるが、野生で何を食べ、どのようにくらし、複雑な生態系の中でどのような役割を担っているのかを学ぶことはできない。

そこで今回の自由集会では、「野生への窓」としての動物園教育について議論を深めたい。動物園が提供可能な教育テーマは情操教育、理科教育、芸術、文化など多岐にわたるが、目の前に“ないもの”を伝えるという意味で、動物園で野生を伝えることは、とても難しい。これは、企画者自身が動物園教育の現場にいて強く感じることだ。野生の姿をどのように伝えるかという「手法」の面と、教育活動のゴールをどこに設定するかという「ねらい」の面に注目して、議論を深めたい。

具体的には、継続的に毎年2名の職員がアフリカ・タンザニアでの研修をおこなっている京都市動物園と、2014年度より幸島、屋久島、タンザニア等への研修をはじめた日本モンキーセンターから、まずは事例紹介をおこなう。動物園職員にとっては貴重な研修の機会となるが、それを動物園教育にどのように活かせるか、参加者とともに議論したい。また、生態的展示を通して野生の姿を伝えようとする天王寺動物園の取り組みや、遠く海外だけではなく身近な環境にも目を向ける京都市動物園の取り組みを紹介いただき、議論を深めたい。

「霊長類の保全」を目的の一つに掲げる日本霊長類学会において、霊長類研究者や動物園関係者、学生や市民を交えて議論することで、動物園教育の新たな可能性が開けると期待している。

#### 予定プログラム：

- ・企画趣旨説明  
赤見理恵（公益財団法人日本モンキーセンター）
- ・事例紹介①：京都市動物園の継続的なタンザニア研修とその展開  
演者調整中（京都市動物園）
- ・事例紹介②：日本モンキーセンターの生息地研修とその展開  
高野智（公益財団法人日本モンキーセンター）
- ・事例紹介③：天王寺動物園の取り組み～都会の真ん中で何を伝えるか～  
牧慎一郎（大阪市天王寺動物園）
- ・事例紹介④：身近な環境にも目を向ける京都市動物園の取り組み  
和田晴太郎（京都市動物園 生き物・学び・研究センター）
- ・ディスカッション（自由集会参加者からも事例があればご紹介ください）  
指定討論者：佐渡友陽一（帝京科学大学）

企画責任者：赤見理恵、高野智（公益財団法人日本モンキーセンター）、  
田中正之（京都市動物園 生き物・学び・研究センター）

連絡先：〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26 公益財団法人日本モンキーセンター  
赤見理恵 電話：0568-61-2327, E-mail：rie.akami@j-monkey.jp

## 第 31 回日本霊長類学会大会 公開シンポジウム (Public Symposium)

### Human nature viewed from the long-term field studies of the great apes: chimpanzees, gorillas, and orangutans

#### 大型類人猿の長期野外研究からみた人間の本性: チンパンジー、ゴリラ、オランウータン

霊長類の「くらし、からだ、こころ、ゲノム」の研究を通して「人間とは何か」を探求する総合的学問としての霊長類学の歩みを、大型類人猿の長期野外調査から展望したい。日本の霊長類学は、西洋のそれと違って野外研究から起源したところに特徴がある。1948年12月、宮崎県の幸島で始まった野生ニホンザルの研究がその嚆矢だ。今西錦司とその仲間たちである。1956年には、民間の支援を受けて財団法人日本モンキーセンターが設立された。そこを起点に、1958年には今西と伊谷純一郎が、アフリカに大型類人猿の最初の調査に出た。1962年に京都大学に人類学の講座が誕生し、当時まだ大学院生だった西田利貞のマハレ山塊での野生チンパンジーの調査が1965年に始まった。本年は、マハレでの長期継続調査開始から50年という記念の年にあたる。そうした先人の努力があって1967年には京都大学に霊長類研究所が設置され、1985年に日本霊長類学会が結成された。今回の特別シンポジウムでは、長期にわたって継続されている大型類人猿の野外調査研究を取り上げることで、改めてこれまでの霊長類研究の流れを振り返り、未来に向けての新たな展望を探りたい。

本シンポジウムでは、世界各地においてチンパンジー、ゴリラ、オランウータンという大型類人猿の長期継続調査をおこなってきた4人の研究者に登壇いただくこととした。それぞれの調査地とそこでの研究の紹介をしていただきたい。さらには、研究成果を踏まえつつより広い視点から、われわれ人間の本性や、その来し方と行く末について語っていただくことを目的とする。

なお、プログラムはすべて英語で行われます。All presentations will be in English.

#### 講演プログラム Schedule

司会 Chair : William C. McGrew (University of Cambridge)

#### 講演 Lectures

- 13:00~13:10 Opening remarks
- 13:10~13:50 Carel van Schaik (University of Zurich)
- 13:50~14:30 山極壽一 Juichi Yamagiwa (京都大学総長)
- 14:30~15:10 中村美知夫 Michio Nakamura (京都大学野生動物研究センター)
- 15:10~15:50 Michael L. Wilson (University of Minnesota)
- 15:50~16:00 総合討論 General Discussion

## プログラム Program

### 口頭発表 Oral presentation

(A1-27, B1-27, C1-11, CE1-8, DE1-6)

### ポスター発表 Poster presentation

(P1-57, PN1-13)

● 行動・認知 1

座長 松田一希・服部裕子

- 9:30 A1 **淡路島ニホンザル集団における協力行動実験**  
貝ヶ石 優 (大阪大・人間科学)、中道 正之 (大阪大・人間科学)、山田 一憲 (大阪大・人間科学)
- 9:45 A2 **ニホンザルは行動圏の周縁で食物パッチ利用を変化させる**  
栗原洋介, 半谷吾郎 (京都大・霊長研)
- 10:00 A3 **嵐山集団のニホンザルにおける敵対的交渉後の親和的交渉に伴う音声の機能**  
勝 野 吏子 (大阪大・人間科学), 山田一憲 (大阪大・人間科学), 中道正之 (大阪大・人間科学)
- 10:15 A4 **ニホンザルは毛づくろいの催促が失敗した時にどう行動するのか**  
上野将敬 (大阪大・人間科学), 山田一憲 (大阪大・人間科学), 中道正之 (大阪大・人間科学)
- 10:30 A5 **Do capuchin monkeys willingly share food with a conspecific?**  
Benoit Bucher<sup>a</sup>, Hika Kuroshima<sup>a</sup>, Kazuo Fujita<sup>a</sup> (<sup>a</sup>Department of Psychology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Japan)
- 10:45 A6 **Hygiene efficiency against parasites in Japanese macaques**  
Cecile SARABIAN (Kyoto University), Andrew MACINTOSH (Kyoto University)
- 11:00 A7 **チンパンジーは「投資」をするのか?**  
黒澤圭貴、友永雅己 (京都大学霊長類研究所)
- 11:15 A8 **Unidirectional tempo convergence in pairs of chimpanzees: an examination under face-to-face setup**  
Lira Yu, Masaki Tomonaga (Kyoto University)
- 11:30 A9 **フサオマキザルにおける記憶内容のメタ認知－課題負荷操作の効果－**  
高木佐保 (京都大・文学研究科), 藤田和生 (京都大・文学研究科)
- 11:45 A10 **Eye preferences in response to emotional stimuli in capuchin monkeys**  
Duncan WILSON (Kyoto University / University of Edinburgh), Sarah-Jane VICK (University of Stirling), Masaki TOMONAGA (Kyoto University)



- 13:00 A11 **屋久島のニホンザル分布の過去 20 年間の変化**  
半谷吾郎（京都大・霊長類研究所），宮田晃江（京都大・霊長類研究所），好廣眞一（龍谷大・経営），高畑由起夫（関西学院大・総合政策），古市剛史（京都大・霊長類研究所），栗原洋介（京都大・霊長類研究所），早石周平（鎌倉女子大学）
- 13:15 A12 **ワオキツネザルのオスの分散様式**  
市野進一郎（京大・アフリカ研），相馬貴代（京大・アフリカ研），宮本直美（京大・アフリカ研），小山直樹（京大・アフリカ研），高畑由起夫（関西学院大・総合政策）
- 13:30 A13 **首輪型ビデオ・スキャニングシステムを用いたニホンザルの生態解明の検討**  
森光由樹（兵庫県立大／兵庫県森林動物研究センター）
- 13:45 A14 **ウガンダ、カリンズ森林における中・大型哺乳類の生息密度推定法の検証**  
五百部裕（椙山女学園大・人間関係），田代靖子
- 14:00 A15 **DNA 分析が明らかにしたゴリラ属の分散様式**  
井上英治（京大・理）
- 14:15 A16 **マハレ山塊国立公園のチンパンジーM 集団内における手のひら型対角毛づくろいの伝播**  
島田将喜<sup>1</sup>・西江仁徳<sup>2</sup>・中村美知夫<sup>2</sup>（<sup>1</sup> 帝京科学大学アニマルサイエンス学科，<sup>2</sup> 京都大学野生動物研究センター）

● 形態・分子

座長 濱田穰・郷康広

- 9:30 B1 **アッサムモンキーの尾の使い方**  
若森 参 (京都大学・霊長類研究所), スチンダ・マライヴィジットノン (チュラロンコーン大学・理学部)、濱田 穰 (京都大学・霊長類研究所)
- 9:45 B2 **マカク属骨盤内動脈系において観察された動脈輪形成と形態学的意義**  
姉帯飛高, 時田幸之輔, 小島龍平 (埼玉医大・保健)
- 10:00 B3 **ミッシングリンクの尻尾を掴む?!:尾の短縮過程解明に挑む形態学的ならびに発生生物学的アプローチ**  
東島沙弥佳 (京大・院理・動物発生)
- 10:15 B4 **霊長類における内側上腕皮神経の比較解剖学**  
緑川沙織 (埼玉医大・保健), 時田幸之輔 (埼玉医大・保健), 小島龍平 (埼玉医大・保健), 影山幾男 (日本歯科大・新潟歯), 相澤幸夫 (日本歯科大・新潟歯), 熊木克治 (日本歯科大・新潟歯)
- 10:30 B5 **シロテテナガザルのオス間血縁ネットワークと分散様式**  
松平一成 (チュラロンコーン大・東京大・理), 石田貴文 (東京大・理), Suchinda Malaiwijitnond (チュラロンコーン大・タイ国立霊長類研究所), Ulrich H. Reichard (南イリノイ大カーボンデール校)
- 10:45 B6 **解毒代謝酵素 GSTM1 の遺伝子全長欠失多型はヒト-チンパンジー間で独立に生じた**  
齊藤真理恵 (東大・院理), 石田貴文 (東大・院理)
- 11:00 B7 **ニホンザルにおける PTC 味盲多型の急速な拡がり**  
鈴木-橋戸南美 (京都大・霊長研), 早川卓志 (京都大・霊長研・モンキーセンター), 松井淳 (東大・農学生命科学), 郷康広 (自然科学研究機構・新分野), 平井啓久 (京都大・霊長研), 颯田葉子 (総研大・先導研), 今井啓雄, (京都大・霊長研)
- 11:15 B8 **行動実験と分子実験によるヒトとニホンザルの甘味感受性比較**  
西榮美子<sup>1</sup>、筒井圭<sup>1</sup>、今井啓雄<sup>1</sup> (1:京都大学・霊長類研究所)
- 11:30 B9 **ニホンザル胸・腰神経後枝内側枝の観察**  
時田幸之輔 (埼玉医大・理学療法学科)
- 11:45 B10 **タイ東北部ナコンラチャシマで新たに見つかった類人猿化石 (予報)**  
國松 豊 (龍谷大・経営), ラタナポン・ハンタ (ナコンラチャシマ・ラジャバット大・東北珪化木鉱物資源研究所), 仲谷英夫 (鹿児島大学・理), 三枝春生 (兵庫県立大・自然・環境科学研究所), 田中里志 (京都教育大・教育) チャルーン・ドゥアークラヨム (ナコンラチャシマ・ラジャバット大・東北珪化木鉱物資源研究所), プラトゥーン・チンタサクン (ナコンラチャシマ・ラジャバット大・東北珪化木鉱物資源研究所)

- 13:00 B11 **夜行性への移行に関与したと考えられるヨザルの大規模反復配列**  
古賀章彦（京大・霊長類），平井啓久（京大・霊長類）
- 13:15 B12 **房総半島におけるニホンザルと外来アカゲザルの交雑状況評価**  
川本芳（京大・霊長研），白井啓（野生動物保護管理事務所），直井洋司，萩原光，白鳥大祐（房総自然博物館），川本咲江，濱田穰（京大・霊長研），川村輝，杉浦義文（野生動物保護管理事務所），丸橋珠樹（武蔵大），羽山伸一（日本獣医生命科学大）
- 13:30 B13 **モーリシャス島産カニクイザルの全ゲノムシーケンス解析**  
長田直樹（北大・情報科学），Nilmini Hettiarachchi（総研大・遺伝学），Isaac Adeyemi Babarinde（総研大・遺伝学），斎藤成也（遺伝研・集団遺伝），Antoine Blancher（トゥールーズ大）
- 13:45 B14 **マーモセット精子形成の遺伝子発現動態**  
今村 公紀（京都大学霊長類研究所），Zachary Yu-Ching Lin（慶應義塾大学医学部），平野 孝昌（慶應義塾大学医学部），芝田 晋介（慶應義塾大学医学部），關 菜央美（慶應義塾大学医学部），北島 龍之介（京都大学霊長類研究所），後原 綾子（実験動物中央研究所），塩見 美喜子（東京大学大学院理学系研究科），佐々木 えりか（慶應義塾大学医学部），塩見 春彦（慶應義塾大学医学部），岡野 栄之（慶應義塾大学医学部）
- 14:00 B15 **ヒト脳と類人猿脳における時空間的比較トランスクリプトーム解析**  
郷康広（自然科学研究機構・新分野創成センター），Qian Li（The Chinese Academy of Sciences and German Max Planck Society Partner Institute for Computational Biology），Liu He（The Chinese Academy of Sciences and German Max Planck Society Partner Institute for Computational Biology），大石高生（京大・霊長研），鶴殿俊史（京大・野生動物研究センター），重信秀治（基生研），柿田明美（新潟大・脳研），那波宏之（新潟大・脳研），Philipp Khaitovich（The Chinese Academy of Sciences and German Max Planck Society Partner Institute for Computational Biology）
- 14:15 B16 **新世界ザルの染色体分化：クモザルの彩色プローブを用いたオマキザル科5属の解析**  
平井啓久（京大霊長類研），平井百合子（京大霊長類研）

口頭発表 Oral presentation 7月19日(日) 19<sup>th</sup> July (Sun)

C会場 (2階 国際交流ホール III) 9:30~11:30  
Hall C (International Conference Hall III, 2<sup>nd</sup> floor) 9:30-11:30

● 行動・認知・分子 Behavior, Cognition, and Molecules		座長 Fred Bercovitch・足立幾磨 Chairs: Fred Bercovitch and Ikuma Adachi
9:30	CE1	<b>Parasitism and sociality in mandrills: do odors play a role in this relationship?</b> Clémence Poirotte (CEFE-CNRS/ University of Montpellier), Marie Charpentier (CEFE-CNRS)
9:45	CE2	<b>Functional identification of gene encoding receptor of PTC bitter taste compound in leaf-eating monkeys</b> Laurentia Henrieta PERMITA (Bogor Agricultural University), Kanthi Arum WIDAYATI (Bogor Agricultural University), Sarah NILA (Bogor Agricultural University), Kei TSUTSUI (Kyoto University), Nami SUZUKI-HASHIDO (Kyoto University), Takashi HAYAKAWA (Kyoto University), Bambang SURYOBROTO (Bogor Agricultural University), Hiroo IMAI (Kyoto University)
10:00	CE3	<b>Age-related and reproductive aging-related changes in bone mass and osteoarthritis in female Japanese and cynomolgus macaques</b> Porrawee POMCHOTE (Chulalongkorn University), Tadashi SANKAI (Tsukuba Primate Research Center), Yuzuru HAMADA (Primate Research Institute, Kyoto University)
10:15	CE4	<b>Can male bonobos determine the peri-ovulatory period with some precision?</b> Heungjin Ryu (PRI, Kyoto University), Chie Hashimoto (PRI, Kyoto University), David A. Hill (PRI and WRC, Kyoto University), Takeshi Furuichi (PRI, Kyoto University)
10:30	CE5	<b>Multiple sexual signals of pregnancy in Japanese macaques</b> Lucie Rigaiill (Primate Research Institute, Kyoto University), Andrew JJ. MacIntosh (Primate Research Institute, Wildlife Research Center, Kyoto University), James P. Higham (New-York University), Sandra Winters (New-York University), Keiko Shimizu (Okayama University of Science), Keiko Mouri (Primate Research Institute, Kyoto University), Takeshi Furuichi (Primate Research Institute, Kyoto University), Cécile Garcia (Centre National de la Recherche Scientifique)
10:45	CE6	<b>Flexible spatial representation of magnitude in monkeys (<i>Macaca mulatta</i>)</b> Rachel F. L. Diamond (Emory University and Yerkes National Primate Research Center), Regina Paxton Gazes (Bucknell University), and Robert R. Hampton (Emory University and Yerkes National Primate Research Center)
11:00	CE7	<b>An experimental study of distance encoding mechanism in chimpanzees signaling</b> Chloe GONSETH, Fumito KAWAKAMI, Etsuko ICHINO, Masaki TOMONAGA (Language and Language and Intelligence Section, Primate Research Institute, Kyoto University)
11:15	CE8	<b>Subspecific hybridization between <i>Macaca fascicularis fascicularis</i> and <i>Macaca fascicularis aurea</i></b> Srchan BUNLUNGSUP(Chulalongkorn University), Yuzuru HAMADA (Kyoto University), Hiroo IMAI (Kyoto University), Suchinda MALAIVIJITNOND (Chulalongkorn University)*

口頭発表 Oral presentation 7月19日(日) 19<sup>th</sup> July (Sun)

D会場 (1階 百周年記念ホール) 13:00~14:30

Hall D (Centennial Hall, 1<sup>st</sup> floor) 13:00-14:30

● 行動・認知 2

Behavior and Cognition2

座長 Andrew MacIntosh

Chair: Andrew MacIntosh

- 13:00 DE1 **Good gibbons and evil macaques - A historical review on cognitive features of non-human primates in Chinese traditional culture**  
Peng ZHANG (Department of Anthropology, Sun Yat-sen University), HE Guixian (Neilingding Futian National Nature Reserve Administration Bureau of Guangdong), XU Hualin (Neilingding Futian National Nature Reserve Administration Bureau of Guangdong)
- 13:15 DE2 **First Report on the white morph western purple - faced leaf langur (*Trachypithecus vetulus nestor*) in Sri Lanka**  
Charmalie AD NAHALLAGE (University of Sri Jayewardenepura), Michael A HUFFMAN (Kyoto University), Raveendra KUMARA (University of Sri Jayewardenepura)
- 13:30 DE3 **Disadvantageous inequity influences chimpanzees' aversive reaction, but not their prosocial choice**  
Yena Kim (National Institute of Ecology, Korea), Masaki Tomonaga (Primate Research Institute, Kyoto University)
- 13:45 DE4 **External Morphological Characteristics of Sulawesi Macaques**  
Bambang Suryobroto (Bogor Agricultural University)
- 14:00 DE5 **Two cases of dead-infant carrying followed by mother-infant cannibalism in captive socially-housed Japanese macaques**  
Claire F.I. WATSON, Naoko HASHIMOTO, Natsume TAKAYOSHI, Munehiro OKAMOTO, Tetsuro MATSUZAWA (all Primate Research Institute of Kyoto University)
- 14:15 DE6 **Yawning: A striking sex difference in lowland gorillas**  
James R. ANDERSON (Kyoto University), Richard PARNELL (University of Stirling)

口頭発表 Oral presentation 7月20日(月・祝) 20<sup>th</sup> July (Mon, Holiday)

A会場 Hall A (2階 国際交流ホールI) 9:15~12:00

● 行動・生態 1

座長 友永雅己・林美里

- 9:15 A17 **飼育下チンパンジーにおける母から子にむけた拍手行動の出現**  
平栗明実<sup>1</sup>・川上文人<sup>1,2</sup>・Chloe Gonseth<sup>1,2</sup>・市野悦子<sup>1</sup>・林美里<sup>1</sup>(1.京都大学霊長類研究所,2.日本学術振興会)
- 9:30 A18 **同居個体の導入による沈鬱状態からの回復:飼育下アカエリマキキツネザルの事例**  
井上紗奈(鎌倉女子大・学術研究所), 新藤いづみ(横浜市立野毛山動物園)
- 9:45 A19 **飼育下チンパンジーにおける子どもの社会的発達とその他個体への影響**  
川上文人(京大霊長研・日本学術振興会), Chloe Gonseth(京大霊長研・日本学術振興会), 市野悦子(京大霊長研), 平栗明実(京大霊長研), 林美里(京大霊長研)
- 10:00 A20 **Nasal temperature change in response to conspecific screams in chimpanzees as measured by a thermal infrared camera**  
Fumihiko Kano (1,2), Satoshi Hirata (1), Josep Call (2,3). 1. Kumamoto Sanctuary, Kyoto University. 2. Max Planck institute for Evolutionary Anthropology, Germany. 3. School of Psychology and Neuroscience, University of St Andrews, UK
- 10:15 A21 **音のリズムの特徴がチンパンジーのタッピングや自発的な動きに与える影響**  
服部裕子(京都大・野生動物研究センター)
- 10:30 A22 **ワンバの野生ボノボにおける果実分配:「儀礼的食物分配」の検討**  
山本真也(神戸大学大学院・国際文化学研究所)
- 10:45 A23 **勝山ニホンザル集団における協力行動**  
山田一憲(大阪大・人間科学), 貝ヶ石優(大阪大・人間科学), 上野将敬(大阪大・人間科学), 中道正之(大阪大・人間科学)
- 11:00 A24 **テングザル音声の鼻音化**  
香田啓貴(京都大・霊長研), John Sha(京都大・霊長研), Ismon Osman(シンガポール動物園), Sen Nathan(サバ州野生生物局), 清野悟((公財)横浜市緑の協会 横浜動物園), 松田一希(京都大・霊長研)
- 11:15 A25 **マーモセットの音声生成の生理学的メカニズム**  
西村剛(京都大・霊長研), 香田啓貴(京都大・霊長研), 徳田功(立命館大・機械工), 脇田真清(京都大・霊長研), 伊藤毅(琉球大・医)
- 11:30 A26 **野生ミューラーテナガザルの音声発達**  
井上陽一(理研・BSI), Waidi Sinun(Yayasan Sabah), 岡ノ谷一夫(理研・BSI, 東大・総合文化)
- 11:45 A27 **屋久島の低地一次林と二次林におけるニホンザルの密度の比較**  
杉浦秀樹(京都大・野生動物)

口頭発表 Oral presentation 7月20日(月・祝) 20<sup>th</sup> July (Mon, Holiday)

B会場 Hall B (2階 国際交流ホールII) 9:15~12:00

● 形態・系統・分子

座長 平崎鋭矢・清水慶子

- 9:15 B17 中国広西壮族自治区における前期～後期更新世の旧世界ザル相の年代変化  
高井正成（京都大・霊長研）、張穎奇・金昌柱（中国科学院・古脊椎動物古人類研究所）、河野礼子（科博・人類）、王頌（広西民族博物館）
- 9:30 B18 タイにおける新第三紀哺乳類層序とヒト上科化石産出層準の年代  
仲谷英夫（鹿児島大学・理）、三枝春生（兵庫県立大・自然・環境科学研究所）、國松 豊（龍谷大・経営）、ラタナポン・ハンタ（ナコンラチャシマ・ラジャバット大・東北珪化木鉱物資源研究所）、ユパ・タソッド（チェンマイ大学・理）、田中里志（京都教育大・教育）、長岡信治（長崎大・教育）
- 9:45 B19 肩甲骨・鎖骨の立体配置と上腕の可動域：旧世界ザルと新世界ザルの4種比較  
加賀谷美幸（広島大・医歯薬保・解剖学及び発生生物学）、青山裕彦（広島大・医歯薬保・解剖学及び発生生物学）、濱田穰（霊長研・進化形態）
- 10:00 B20 アッサムモンキー (*Macaca assamensis*) とその近縁分類群の系統発生学と分類  
濱田 穰（京都大学・霊長類研究所）、川本 芳（京都大学・霊長類研究所）
- 10:15 B21 大型類人猿の骨盤上の耳状面前溝  
五十嵐由里子（日本大・松戸歯学部）、久世濃子（国立科学博物館・人類研究部）
- 10:30 B22 足底筋とヒラメ筋における支配神経の比較解剖学的解析  
荒川高光（神戸大・院・保健）、月生達也（神戸大・医・保健）
- 10:45 B23 **The ‘grey zone’ of langur phylogeography in Sri Lanka**  
Michael A. HUFFMAN, Yoshi KAWAMOTO (Kyoto University), Charmalie AD NAHALLAGE, Raveendra KUMARA (University of Sri Jayawardenepura), Takayoshi SHOTAKE (Kyoto University)
- 11:00 B24 ヒト、チンパンジー、コモンマーモセットにおける脳梁発達の比較研究：ヒト特異的な脳構造の発達機構の解明に向けて  
酒井朋子（慶應大・医）、三上章允（中部学院大・看護リハ）、小牧裕司（慶應大・医/実中研）、畑純一（慶應大・医/実中研/理研）、松井三枝（富山大・医学薬学）、岡原純子（実中研/慶應大・医）、岡原則夫（実中研/慶應大・医）、井上貴司（実中研/慶應大・医）、佐々木えりか（実中研/慶應大・医）、濱田穰（京都大・霊長研）、鈴木樹理（京都大・霊長研）、宮部貴子（京都大・霊長研）、松沢哲郎（京都大・霊長研）、岡野栄之（慶應大・医/理研）
- 11:15 B25 ニホンザルにおける新たな妊娠評価法  
毛利恵子（京都大・教育）、清水慶子（岡山理科大・理）

- 11:30 B26 サルレトロウイルス4型によるニホンザル血小板減少症  
岡本宗裕(京都大・霊長研), 宮沢孝幸(京都大・ウイルス研), 吉川祿助(京都大・ウイルス研), 鈴木樹理(京都大・霊長研), 宮部貴子(京都大・霊長研), 佐藤英次(京都大・霊長研), 吉田友教(京都大・霊長研), 森本真弓(京都大・霊長研), 兼子明久(京都大・霊長研), 前田典彦(京都大・霊長研), 橋本直子(京都大・霊長研), 明里宏文(京都大・霊長研)
- 11:45 B27 近赤外分光法を用いたボルネオオランウータン (*Pongo Pygmaeus*) の尿中エストロゲン代謝産物とクレアチニン濃度測定について  
木下こづえ(京都大・霊長研), 久世濃子(科博・学振), 小林智男(横浜市立よこはま動物園), 宮川悦子(横浜市立金沢動物園), 成田浩光(釧路市動物園), 井上-村山美穂(京都大・野生研), 伊谷原一(京都大・野生研), Roumiana Tsenkova(神戸大・農)



口頭発表 Oral presentation 7月20日(月・祝) 20<sup>th</sup> July (Mon, Holiday)

C会場 Hall C (2階 国際交流ホール III) 9:15~12:00

● 行動・生態 2

座長 伊谷原一・井上英治

- 9:15 C1 果実の物性と採食行動の関連から見た野生オマキザル(*Cebus capucinus*)の果実採食に有効な感覚の再考  
河村正二(東京大・院新領域), Amanda D. Melin (Washington University, Department of Anthropology), 白須未香(東京大・院農学生命: ERATO 東原化学感覚シグナルプロジェクト), 松下裕香(東京大・院新領域), 櫻井児太摩(東京大・院新領域), Mackenzie L. Bergstrom (University of Calgary, Department of Anthropology), Linda M. Fedigan (University of Calgary, Department of Anthropology), 東原和成(東京大・院農学生命: ERATO 東原化学感覚シグナルプロジェクト)
- 9:30 C2 ヒトの地上生活への移行と森林気象  
竹元博幸(京都大・霊長研)
- 9:45 C3 マハレのチンパンジーの果実採食の季節性と年変動—とくに *Saba comorensis* の重要性に着目して  
中村美知夫(京都大・野生動物), 伊藤詞子(京都大・野生動物)
- 10:00 C4 ワオキツネザルはどのように重要採食樹種の消失に対処するのか?  
相馬貴代(京大・アフリカ研)
- 10:15 C5 野生ニホンザル (*Macaca fuscata*) による種子散布距離の推定: 食物環境の年変化の影響  
辻大和(京大・霊長研)
- 10:30 C6 餌付けニホンザル群における餌獲得量の順位間比較—高崎山群と幸島群—  
栗田博之(大分市・農林水産)
- 10:45 C7 タンザニア・マハレ M 集団の野生チンパンジーの出産と子殺し/カニバリズムの新事例  
西江仁徳(日本学術振興会/京都大・野生動物研究センター)
- 11:00 C8 難しいロコモーター課題へのニホンザルの運動戦略  
日暮泰男(近畿大・医), 熊倉博雄(大阪大・人間科学)
- 11:15 C9 霊長類の休息姿勢: なぜコロブス類は垂直姿勢を好むのか?  
松田一希(京大・霊長研), Chua Ying Shi Physilia (Nanyang Technological University), John Chih Mun Sha (京大・霊長研), Marcus Clauss (University of Zurich)
- 11:30 C10 ヒト上科の中手指節関節に見られる種子骨について  
中務真人, 森本直記(京都大・理), 西村剛(京都大・霊長研)
- 11:45 C11 ベニガオザルの傷痕—犬歯の欠損・消失など—  
丸橋珠樹(武蔵大学人文学部), Warayut Nilpaung (Khao Krapuk-Khao Tao Mo non-hunting area), Suchinda Malaivijitnond (Chulalongkorn University)

ポスター発表 C会場 (2階 国際交流ホール III)

Poster Session: Hall C (International Conference Hall III, 2<sup>nd</sup> floor)

ポスター掲示時間 7月19日(日)12:30~20:00

You can put your poster from 12:30- 20:00 on July 19.

発表責任者在席時間 Core Time

奇数番号(Odd-number Presentation): 14:40~15:40

偶数番号(Even-number Presentation): 15:40~16:40

- P1 **カメラトラップを用いたマンドリルの繁殖季節性とオスの集団流入パターンの解明**  
本郷峻 (京都大・理), 中島啓裕 (日本大・生物資源科学), エチエンヌ・フランソワ アコモ - オクエ (京都大・理、ガボン熱帯生態研究所), フレッド・ロイック ミンドンガ - ングレ (マスク大・生物)
- P2 **手指の先天的形態異常をもつニホンザルの前腕の筋構成**  
小島龍平, 鈴木翔太郎, 時田幸之輔 (埼玉医大・保健医療)
- P3 **新世界ザルにおける液性免疫応答の機能低下は霊長類肝炎ウイルスの持続感染に寄与する**  
鈴木紗織 (京都大学・霊長類研究所)、東濃篤徳 (京都大学・霊長類研究所)、森健一 (先端生命科学研究所)、大出裕高 (名古屋医療センター)、松岡和弘 (名古屋医療センター)、岩谷靖雅 (名古屋医療センター)、杉浦互 (名古屋医療センター)、片貝祐子 (予防衛生協会)、榎昇 (先端生命科学研究所)、明里宏文 (京都大学・霊長類研究所)
- P4 **オキシトシン受容体遺伝子の多型がニホンザルの社会性に与える影響**  
大西賢治 (東大・総文, 日本学術振興会), 山田一憲 (阪大・人間科学), 中道正之 (阪大・人間科学), 井上英治 (京大・理), 齋藤慈子 (武蔵野大・教育), 長谷川寿一 (東大・総文) 井上-村山美穂 (京大・野生動物)
- P5 **動物園のワオキツネザル集団における子への関わりかけが集団の社会構造に与える影響の検討**  
大井裕典 (大阪大学大学院・人間科学研究科), 山田一憲 (大阪大学大学院・人間科学研究科), 中道正之 (大阪大学大学院・人間科学研究科)
- P6 **Polymorphism of the mu-opioid receptor gene (*OPRM1*) and arginine vasopressin receptor gene (*AVPR1a*) is associated with chimpanzee Conscientiousness**  
Miho INOUE-MURAYAMA, Hideaki ABE, Naruki MORIMURA, Toshifumi UDONO, Gen'ichi IDANI, Tetsuro MATSUZAWA (Kyoto University), Vanessa WILSON, Alexander WEISS (The University of Edinburgh)

- P7 **半野生オランウータンにおける食物移動のパターン**  
田島知之（京都大・人類進化論），ティトル・ピーター・マリム（サバ州野生生物局・マレーシア）
- P8 **ネパールとタイとインドのアッサムモンキーの調査地**  
小川秀司（中京大・国際教養），Mukesh Kumar Chalise（Department of Zoology, Tribhuvan University），Suchinda Malaivijitnond（Faculty of Science, Chulalongkorn University），Mayur Bawri（Department of Zoology, Gauhati University），濱田穰（京大・霊長研）
- P9 **ニホンザルにおける他個体間の親密度に応じた休息時の接近行動**  
島悠希（京都大・院理・人類進化論）
- P10 **持続感染した霊長類肝炎ウイルスの適応変異：ウイルスゲノム変異が及ぼす病態への影響**  
東濃篤徳（京大・霊長研），鈴木紗織（京大・霊長研），森健一（先端研），大出裕高（名医セ），松岡和弘（名医セ），片貝祐子（予防衛生協会），岡林佐知（予防衛生協会），槇昇（先端研），岩谷靖雅（名医セ），杉浦互（名医セ），明里宏文（京大・霊長研）
- P11 **タンザニア西部ウガラ地域に生息するチンパンジーの泊まり場選択の季節変化**  
吉川翠（東京農工大学大学院・連合学研究所），小川秀司（中京大学・国際教養学部），小金澤正昭（宇都宮大学・農学部），伊谷原一（京都大学・野生動物研究センター）
- P12 **東山動物園の飼育ニシゴリラの社会的発達：母と非母の”役割”**  
竹ノ下祐二（中部学院大・教育）
- P13 **左前腕を切断した飼育下チンパンジーにおける行動変化と他個体への影響**  
櫻庭陽子（京都大学霊長類研究所，日本学術振興会），近藤裕治（名古屋市東山動物園），山本光陽（名古屋市東山動物園），足立幾磨（京都大学霊長類研究所），林美里（京都大学霊長類研究所）
- P14 **野生ニホンザルのアカンボウに近接する母親以外の個体は誰なのか**  
島田朋美，下岡ゆき子（帝京科学大学）
- P15 **飼育下ボルネオオランウータンの妊娠中のホルモン動態**  
平井仁智（岡山理科大学・理），井上健二（釧路市動物園），小川誠一（釧路市動物園），成田浩光（釧路市動物園），清水慶子（岡山理科大学・理）
- P16 **ニホンザルにおける皮幹筋とその支配神経について**  
近藤健（諸岡整形外科病院），菊池泰弘（佐賀大・医），倉岡晃夫（佐賀大・医）
- P17 **ニホンザルのアニマシー知覚と運動刺激に誘導される自発的トラッキング反応**  
瀧美剛史，正高信男（京都大・霊長類研究所）
- P18 **京都市動物園における飼育下霊長類4種における系列学習－霊長類の知性を展示する－**  
田中正之（京都市動物園，京都大・野生動物），松永雅之（京都市動物園），島田かなえ（京都市動物園），伊藤二三夫（京都市動物園），佐々木智子（京都市動物園）

- P19 **飼育チンパンジーの長期的なストレスに影響を及ぼす要因の検討：攻撃・親和的社会行動に着目して**  
山梨裕美，寺本研，森村成樹，野上悦子，平田聡（京都大学野生動物研究センター）
- P20 **ヒト動脈硬化症のアカゲザルモデル作出のための基礎研究**  
日比野久美子(名古屋文理大・短大)、竹中晃子(名古屋文理大)、鈴木樹理、森本真弓、釜中慶郎(京大・霊長研)
- P21 **Number Concepts Study in Chimpanzees: Numerical Sequential Learning from 0 to 19 and Cardinal Number Task**  
Akiho MURAMATSU (Kyoto University, Japan Society for the Promotion of Science), Tetsuro Matsuzawa (Kyoto University)
- P22 **野生ニホンザルにおける行動の時間配分と分派行動の関係**  
風張喜子（北海道大・フィールド科学センター）
- P23 **ニホンザル野生群における infant handling の意義**  
関澤 麻伊沙，沓掛 展之（総合研究大学院大学・先導科学研究科）
- P24 **ナックルウォーキングの進化的獲得：アリの事例から**  
藤野 健（東京都老人研）
- P25 **オランウータンは遅延呈示される自己像を認識できるか？**  
花塚優貴（中央大学人文科学研究所），清水美香（東京都多摩動物公園），高岡英正（東京都多摩動物公園），緑川晶（中央大学文学部）
- P26 **屋久島の野生ニホンザルによる採食樹木の利用の空間構造**  
D. S. Sprague（農環研）、西川真里（京大・理）
- P27 **動物園来園者の存在がジェフロイクモザルの行動および空間利用に与える影響**  
棚田晃成、藤田志歩（鹿児島大・農）、峯下和久（平川動物公園）
- P28 **Interactive live-streaming video enrichment in captive male chimpanzees**  
Naruki Morimura and Yusuke Mori (Kumamoto Sanctuary of Kyoto University)
- P29 **The role of mother-offspring contact in wild Bornean orangutans (*Pongo pygmaeus morio*)**  
Morgane ALLANIC (Kyoto University), Danica STARK (Cardiff University), and Benoit GOOSSENS (Cardiff University)
- P30 **マハレに生息する野生チンパンジーの耳と指の傷跡の傾向**  
座馬耕一郎（京大・アジアアフリカ地域研究）
- P31 **遺伝子分析を利用したワオキツネザルの父系判定の研究**  
廣川百恵（公益財団法人日本モンキーセンター）、中尾汐莉（公益財団法人日本モンキーセンター）、田中ちぐさ（公益財団法人日本モンキーセンター）、杉浦直樹（公益財団法人日本モンキーセンター）、川本芳（京都大学霊長類研究所）、市野進一郎（京都大学アフリカ地域研究資料センター）

- P32 **コモンマーモセットにおける尾食い**  
三輪美樹, 森本真弓、夏目尊好、中村克樹 (京都大学霊長類研究所)
- P33 **ニホンザルによる農作物被害が住民意識に与える影響**  
浅井隆之, 藤田志歩 (鹿児島大・共同獣医)、塩谷克典、稲留陽尉 (鹿児島県環境技術協会)
- P34 **大型類人猿 4 種とヒトの対象操作からみた認知発達**  
林美里 (京都大・霊長研)、竹下秀子 (滋賀県大・人間文化)
- P35 **Factors Mediating Dehydroepiandrosterone concentrations in Japanese macaques**  
Rafaela S. C. TAKESHITA (Kyoto University), Michael A. HUFFMAN (Kyoto University), Fred B. BERCOVITCH (Kyoto University), Keiko MOURI (Kyoto University), Keiko SHIMIZU (Okayama University)
- P36 **Feel the Force – チンパンジーにおけるトラックボールを用いた力覚弁別**  
友永雅己 (京都大・霊長類研)・酒井基行・田中由浩・佐野明人 (名古屋工大)
- P37 **スリランカのトクザルから分離した腸管寄生アメーバ *Entamoeba nuttalli* における遺伝子多型と病原性の解析**  
橋 裕司 (東海大・医)、柳 哲雄 (長崎大・熱研)、馮 萌 (東海大・医)、K. B. Anura T. BANDARA (ペラデニヤ大・獣医) 小林正規 (慶應大・医)、程 訓佳 (東海大・医)、平山謙二 (長崎大・熱研)、R. P. V. Jayanthe RAJAPAKSE (ペラデニヤ大・獣医)
- P38 **京都盆地北縁に生息するニホンザル K 群の生態 4) 長期間に見られた行動域の変化**  
西邨顕達
- P39 **閉経後の高齢メスにみられる交尾行動と内分泌動態との関連 – ニホンザル嵐山群からの報告**  
豊田有 (京都大・霊長研)、清水慶子 (岡山理大・動物)、古市剛史 (京都大・霊長研)
- P40 **ボルネオオランウータン (*Pongo pygmaeus*) における精子運動率と時間変化に関する基礎的研究**  
久世濃子 (科博・学振)、木下こづえ (京都大・霊長研)、宮川悦子 (金沢動物園)、小林智男 (よこはま動物園ズーラシア)、尾形光昭 (横浜繁殖センター)、中村智行 (千葉市動物公園)、黒鳥英俊 (京都大・野生研)、木村幸一 (東山動植物園)、佐藤康弘 (東山動植物園)、尾崎康彦 (名市大・産婦人科)
- P41 **飼育下ヤクニホンザルにおける繁殖パラメーターの時間的变化**  
新宅勇太 ((公財) 日本モンキーセンター, 京大・野生研)
- P42 **大隅半島に生息するニホンザルの群れ密度の推定 – ライントランセクト法とカメラトラップ法の比較 –**  
藤田志歩 (鹿児島大学・共同獣医)、座馬耕一郎 (京都大院・アジア・アフリカ地域研究)、竹ノ下祐二 (中部学院大・教育)、浅井隆之、棚田章成、大羽真理 (鹿

児島大・農), 門馬一平(北九州市立大院・社会システム), 猪股萌子(北九州市立大・外国語), 三崎尚子(北九州市立大・文)

- P43 **国内飼育下フクロテナガザルにおける適切な個体群管理に向けた個体情報収集と評価**  
綿貫宏史朗<sup>1),2)</sup>, 奥村文彦<sup>1)</sup>, 打越万喜子<sup>1),2)</sup>, 友永雅己<sup>1),2),3)</sup>, 平田聡<sup>1),3)</sup>, 伊谷原一<sup>1),3)</sup>, 松沢哲郎<sup>1),2),3)</sup> (1) 公益財団法人日本モンキーセンター, 2) 京大・霊長研, 3) 京大・野生動物)
- P44 **飼育チンパンジーにおける夜間の就眠場所を指標とした個体間関係の検討**  
市野悦子、林美里(京大・霊長類研究所)
- P45 **飼育下チンパンジーにおける食事改善**  
藤森唯(京都大学霊長類研究所・人類進化モデル研究センター), 林美里(京都大学霊長類研究所・思考言語分野)
- P46 **高速度ビデオを用いたチンパンジー木登り運動の分析**  
中野良彦(大阪大・人間科学)
- P47 **霊長類 Evo-Devo 研究ツールとしてのチンパンジーiPS細胞の利用**  
北島龍之介(京大・霊長研)、リン ザッカリー ユーチン(慶應大・医)、馬場庸平(慶應大・医)、西原浩司(慶應大・医)、今井啓雄(京大・霊長研)、平井啓久(京大・霊長研)、岡野栄之(慶應大・医)、今村公紀(京大・霊長研)
- P48 **ケニア中期中新世の類人猿 *Nacholapithecus kerioi* における下位胸椎—椎体サイズと棘突起について—**  
菊池泰弘(佐賀大・医), 中野良彦(大阪大・人間科学), 中務真人(京都大・理), 國松豊(龍谷大・経営), 清水大輔(京都大・理), 荻原直道(慶応大・理工), 辻川寛(東北文化学園大・医療福祉), 高野智(日本モンキーセンター), 石田英實(京都大)
- P49 **ブナ科樹種4種に対するニホンザルの採食圧の違いが樹木の更新に与える影響**  
高橋明子(京大 WRC)
- P50 **勝山ニホンザル集団における突然の大きな音に対する反応**  
中道正之(大阪大院・人間科学・比較行動)
- P51 **現生霊長類における踵骨からの体重推定にむけて**  
鏝本武久(愛媛大・院・理工)
- P52 **チンパンジーはどのように物遊びを発明するか**  
齋藤亜矢(中部学院大・教育)
- P53 **飼育下チンパンジーの授乳期における性皮腫脹**  
奥村文彦<sup>1)</sup>, 星野智紀<sup>1)</sup>, 坂口真悟<sup>1)</sup>, 綿貫宏史朗<sup>1),3)</sup>, 木下こづえ<sup>2)</sup>, 岡部直樹<sup>1),3)</sup>, 木村直人<sup>1)</sup>, 伊谷原一<sup>1),3)</sup> (1) 公益財団法人日本モンキーセンター, 2) 京大・霊長研, 3) 京大・野生動物)
- P54 **Space-based representation of an acquired sequence in rhesus macaques**  
Ikuma Adachi (Kyoto University)

- P55 **Hidden constraints of chronic parasitism on health and fitness in Japanese macaques**  
Andrew MACINTOSH (Kyoto University), Cecile SARABIAN (Kyoto University), Julie DUBOSCQ (University of Strasbourg), Elodie THOMAS (University of Tours), Valeria ROMANO (University of Strasbourg), Akihisa KANEKO (Kyoto University), Munehiro OKAMOTO (Kyoto University), Takafumi SUZUMURA (Kyoto University)
- P56 **霊長類における苦味受容体遺伝子の比較集団遺伝解析**  
早川卓志 (京都大・霊長研/日本モンキーセンター)
- P57 **チンパンジーの咀嚼機能と加齢**  
藤澤道子 (京都大学・東南アジア研究所)
- PN1 **Infant Mortality and Copulation Patterns in a Wild Group of Tibetan Macaques at Mt. Huangshan, China**  
Sofia Bernstein (Kyoto University), Dong-po Xia (Anhui University), Bing-hua Sun (Anhui University), Jin-Hua Li (Anhui University), Lori K. Sheeran (Central Washington University), R. Steven Wagner (Central Washington University), Sara Perdue (Central Washington University)
- PN2 **Androgen receptor and monoamine oxidase polymorphism in wild bonobos**  
Cintia Garai (Kyoto University, Primate Research Institute), Takeshi Furuichi (Kyoto University), Yoshi Kawamoto (Kyoto University), Heungjin Ryu (Kyoto University), Miho Inoue-Murayama (Kyoto University)
- PN3 **Color perception in Chimpanzee "*Pan troglodytes*"**  
Camille PENE (Toulouse National Veterinary School), Akiho MURAMATSU (Kyoto University), Tetsuro MATSUZAWA (Kyoto University)
- PN4 **Why Japanese primatology? A perspective from sociocultural anthropology**  
Gabriela BEZERRA DE MELO DALY (Primate Research Institute and École Normale Supérieure)
- PN5 **オトナー子ども間の空間距離にみる大型類人猿の社会性発達: ゴリラとチンパンジーの観察から**  
堀口顕義<sup>1</sup>, 中井庸和<sup>1</sup>, 田中千愛<sup>1</sup>, 林実乃里<sup>1</sup>, 菅琴音<sup>2</sup>, 篠原亜佐美<sup>2</sup>, 西村優美子<sup>2</sup>, 山本英実<sup>2</sup>, ユリラ<sup>2</sup>(<sup>1</sup>滋賀県立膳所高等学校, <sup>2</sup>京都大学大学院教育学研究科)
- PN6 **Evaluating stress in male Japanese Macaques living in two types of captive conditions; vegetated vs. non-vegetated**  
Josue S. Alejandro Pastrana (PRI Kyoto University)
- PN7 **京都市動物園における霊長類学初歩実習: 北野高校の取り組み**  
瀧山拓哉(京都大学・理学部), 杉江勇哉(北野高等学校), 中田希穂(北野高等学校), 藤本嵐(北野高等学校), 山口美緒(北野高等学校), 川上文人(京都大学霊長類研究所・日本学術振興会)
- PN8 **The Natural History of Prejudice? Absence of Evidence vs Evidence of Absence in Non-human Primates**

David BUTLER (Kyoto University), Masako MYOWA-YAMAKOSHI (Kyoto University), Masayuki TANAKA (Kyoto University, Kyoto City Zoo)

- PN9 京都市動物園における霊長類学初歩実習の活動報告：関西大倉高校の取り組み  
川口ゆり（京都大学・文学部），坂井廉（関西大倉高校），田村圭都（関西大倉高校），坪村泰佑（関西大倉高校），野々山達也（関西大倉高校），文元りさ（関西大倉高校），山本真也（神戸大学大学院・国際文化学研究科）
- PN10 **The cognitive relevance of call matching: A playback experiment in Japanese macaques**  
Hélène BOUCHET (Primate Research Institute, Kyoto University), Hiroki KODA (Primate Research Institute, Kyoto University), Alban Lemasson (University of Rennes 1, France)  
< 発表取り消し Canceled >
- PN11 **Silent bared teeth displays and dominance certainty in captive Rhesus macaques**  
Kelly FINN (University of California Davis), Brianne BEISNER (University of California Davis), Darcy HANNIBAL (California National Primate Research Center), Brenda MCCOWAN (University of California Davis)
- PN12 **The Rock-Paper-Scissors Game in Chimpanzees (*Pan troglodytes*)**  
Jie GAO (Peking University), Masaki TOMONAGA (Primate Research Institute, Kyoto University), Tetsuro MATSUZAWA (Primate Research Institute, Kyoto University), Yanjie SU (Peking University)
- PN13 **Mother-infant behavior in wild orangutans (*Pongo pygmaeus morio*), Danum Valley, Borneo: implications for infant development**  
Renata MENDONÇA (Kyoto University), Tomoko KANAMORI (Kyoto University), Misato HAYASHI (Kyoto University), Tetsuro MATSUZAWA (Kyoto University)



第 31 回日本霊長類学会大会

The 31st Congress of the Primate Society of Japan

大会会長 松沢哲郎  
President Tetsuro Matsuzawa

運営委員長 友永雅己  
Committee chair Masaki Tomonaga

運営委員会 林美里 足立幾磨  
Committee member Misato Hayashi Ikuma Adachi  
平田聡 川上文人  
Satoshi Hirata Fumito Kawakami  
服部裕子 早川卓志  
Yuko Hattori Takashi Hayakawa

大会事務局 左海陽子 秋山未来  
Secretary Yoko Sakai Miku Akiyama

宮部真奈美 榎畑裕子  
Manami Miyabe Hiroko Kuwahata

酒井道子 大藪陽子  
Michiko Sakai Yoko Ohyabu

奥村由香利 平田加奈子  
Yukari Okumura Kanako Hirata

連絡先 〒484-8506

愛知県犬山市官林 41-2

京都大学霊長類研究所

Contact: Primate Research Institute, Kyoto University

電話 0568-63-0509

E-Mail psj2015@wildlife-science.org

大会 Web Site

<http://www.wildlife-science.org/psj2015/index.html>

本大会の運営は、京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院、日本学術振興会研究拠点形成事業 A.先端拠点形成型「心の起源を探る比較認知科学研究の国際連携拠点形成（CCSN）」、日本学術振興会科学研究費特別推進研究 24000001 の補助を受けておこなわれた。

This meeting was financially supported by Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science, Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) Core-to Core Program A. Advanced Research Networks “Comparative Cognitive Science Network for understanding the origins of human mind (CCSN)”, and JSPS Grants-in-Aid for Scientific Research #24000001.